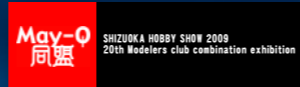


Flakpanzer IV 2cm Vierling Wirbelwind

Modeling by
Kunihito Kawamura



1/35 scale custom-made

TAMIYA MM 91 German 20mm Flakvierling 38
DRAGON 6363 Pz.Kpfw.IV Ausf.G
DRAGON 6288 2cm Flak 38 mit Sd.Ah.51
ROYAL MODEL 448 German Flakpanzer IV Wirbelwind "Turret"
VERLINDEN PRODUCTIONS 1534 Panzer IV Interior
FRIULMODEL ATL-04 PZ III/IV Track links
VOYAGER MODEL 35145 Fenders for Pz.kpfw.IV Ausf F1-H
ABER 35A98 German tool holders-early used up to 1943(new release)
K59 C-007 2cm Flak Ammo Box
ADLERS NEST ANM-35027/35029 2cm FlaK38 Barrel
and use other detail up parts.



ウィルベルヴィントは中古車台を再利用して製造されたが、F型～G初期型と思われる車体が多数確認できる。そこでG初期型を想定してリアパネルの冷却水交換用蓋がなく、リアパネルにスモークデスチャージャーを装備した座金のある仕様で組み、前面増加装甲を装備しフエンター上車外装備品位置はH型中期以降の仕様にして、戦車で運用されていた頃からバージョンアップして運用された古参車両である雰囲気を表現してみた。エンジンルーム横の吸排気グリルに独特の柵を追加した車両が見られるので、真鍮線を一本一本切り出して貼り付けて再現するなどキットに手を加えている。

オープントップの車両で悩むのが車体内部の再現だが、ウィルベルヴィントの場合は殆ど内部は見えない。しかしブレーキ点検ハッチや操縦手ハッチを開けたいとも考え、手持ちのバーリントン製インテリアキットを組み込んでいる。ツメリットコーティングは新型起動輪を備えたH型以降の車体で多く見られるが、旧型起動輪の車体ではツメリットコーティングが見られずシャシーにだけ施した車両が確認できる。今回は古参車体とう想定なのでコーティングしていない車両に仕上げた。

塗装はガイアカラーをベース塗装に使い、工場で施されたと思われるグリーンが多い迷彩パターンを再現した。特に砲塔はスプレーガンのムラが見て取れるラフな塗りが見られるので、その雰囲気を再現すべく、エアブラシの細噴きを何度か重ねて勢いとタッチの効いたパターンを描いてみた。ウェザリングは油絵の具のローアンバーを使用。チッピングは人が触れそうなところに集中させ、小さく描き込むように注意した。最後にピグメントで立体的な汚れを付け、再現の難しい擬装用樹木の代わりに枯葉のようなダストを再現して擬装用樹木のメタファーとした。車体に撒いたダストは木工ボンドと水を加えたタミヤアクリル溶剤で定着させている。



ウィルベルヴィントの1/35キットはタミヤからMM233として発売されている。このキットは組立て易さとスケールの正確さを併せ持った製品に仕上がっているが、現在のスケールモデルの再現性という観点からは車体上部の抜きテーパーによる形状の違いやディテールの省略、細部の誇張が気になる。そこで、高い再現性を得るためにドラゴンのG型キットをベースに各社パーツを利用しながら制作することにした。2cm 4連装対空砲 38型はタミヤのMM91をベースに徹底工作を施した。今ではドラゴンやトランベッターが1/35化しているが、この作品に着手した時点ではタミヤの製品しかなかったのである。実物は薄い鋼板のプレス部品で製造されており、その構造を表現することに主眼を置き、本体周囲に板材端部が少しはみ出している様子や細い溶接線を再現した。また、砲架部や防楯は自作エッチングを起こし、手加工では困難な細部形状とスケール感のある厚さを再現している。

